

# 彩遊祭楽

三谷市民文化振興財団ニュース



## 福井の郷土料理

### 小鯛のささ漬

成魚になっても小さいレンコダイ（キダイ）を3枚におろし、塩と酢で味付けし樽詰めにした若狭の名産品。明治時代に若狭湾でレンコダイが豊漁となり、小浜の魚商人が京都の取引先と共に開発したと言われている。そのまま何もつけずに食べてもおいしいが、わさび醤油を付けたり寿司や茶漬けにしてもおいしく食べられる。防腐作用がある笹の葉が樽詰めの際に使われたことから、この名がついたと言われている。



### 浜焼き鯖

鯖を一匹まるごと焼く「浜焼き鯖」。暖流と寒流が入り込む若狭産の鯖は特に味がよく、古くから京都ではごちそうとされ、祇園祭の時には赤飯と共に晴れの食事として供されてきた。鯖は水揚げされると腐りやすいため、焼き上げることによって長く保存が可能となる。鮮度が重視される鯖を若狭の商人が都へ運ぶために考案したもので、1年を通じて食べるが、特に夏の時期には夏バテ防止のために、タンパク質を補給する意味で良く食べられる。



### 鯛まま

古くから鯛漁が盛んだった三国地方で、漁の後などに食べていた手軽な漁師料理。釣り上げたばかりの鯛を刺身にし、鯛のアラでとった出汁やみそ汁、番茶をかけて豪快に食べる茶漬けの一種で、近年ではあまり食べられることがなくなっていたが、テレビCMで紹介されたことをきっかけに、三国の名前とともに全国から脚光を浴びるようになった。4～8月頃が最もおいしい時期と言われている。



### なまぐさ汁

京都まで魚を運ぶ鯖街道の出発点であり、若狭湾での中心地だった小浜市。なまぐさ汁は市内宮川地区の新保区に伝わる伝承料理で、焼き鯖とネギなどの具をたくさん入れたすまし汁。名前からくるイメージと違って、少し甘めで生臭さは全くなく、精進明けや祝い事の席では欠かせなかった料理である。現在でも建前などの祝い事や、法事などでつくる家もある。



※出典：農林水産省Webサイト <https://www.maff.go.jp/>

## 一般財団法人 三谷市民文化振興財団

〒910-8571 福井県福井市豊島1-3-1 三谷ビル  
TEL: 0776-20-3188 FAX: 0776-20-3306

2021年6月発行・このニュースに関するお問い合わせは、☎03-6451-0536 ホーピスト(株) まで

## ふくいの無形文化財

### 宇波西神社 王の舞 4月8日

国の無形文化財に指定されている宇波西神社「王の舞」は、豊作や豊漁、そして国の平安を祈って演じられるもので中世頃より始まったと言われている。「王の舞」は若狭地方の三方郡、三方上中郡を中心に各地域ごとに行われ、それぞれの地域の特色を保ちながら継承されてきた。舞手は顔に鼻高面、頭には鳥兜、鳳凰の冠などの被り物をつけ、鉾を持ち身を反らしたり膝を曲げたりしながら舞うのが特徴。若狭地方に春を知らせる伝統の風物詩である。(若狭町)



## ふるさとめぐり 第13回 越前町

### 伝説



### …玉川洞窟観音(丹生郡越前町玉川)…

昔、玉川の漁師の網にかかった十一面観音をこの地に祀ったのが、「玉川観音」の始まりと言われているが、14代天皇の仲哀天皇が海上からこの地を訪れた際、暴風により海が荒れ船が転覆しそうになった時に、海中から龍に乗った観世音菩薩が現れ海を鎮め、命を救われた天皇が観世音菩薩に感謝し、この地にあった祠にその姿を模した像を祀ったという説もある。また仲哀天皇の皇子である忍熊王がこの地の賊徒を征伐の際思わぬ苦戦を強いられたが、この洞窟に身を隠したところ、賊徒が近づくと桶岩が入口をふさぎ見つかるのを防いだとも言われている。観音像は唐様式で、泰澄大師の作とも言われており、以前は天然の洞窟の中にあったが、1989年の崩落事故の後、安全のため1994年に現在の場所に移動した。

### 玉川洞窟観音に行く

玉川洞窟観音  
■武生駅・鯖江駅より車で約35分

## 句碑

又も斯ふ  
行きかよへとや  
蹄千鳥 以哉坊

「自分もまたこの地にきて、皆とともに俳諧を楽しみたい」という気持を、渡りくる千鳥に託したのであろう。昔、この地では大変俳諧が盛んで、俳諧撰集「千鳥塚」が発行された。



### 句碑に会いに行く

氣比神社 ■住所：越前町氣比庄1-19



# 一般財団法人 三谷市民文化振興財団 助成団体募集!!

募集期間：2021年10月1日～11月30日

一般財団法人 三谷市民文化振興財団は、福井県内におけるボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の振興を通じて「こころ豊かな地域づくり、社会づくり」に貢献することを目的として、2021年度の助成団体の募集を行います。

## 募集の要領

- 助成の対象分野
  - ・ボランティア活動
  - ・スポーツ活動
  - ・市民文化活動

## ●助成の対象となる団体

■営利を目的としない次の条件を満たす団体

1. 福井県内で活動している団体
2. 会員が5名以上の団体
3. 設立1年を経過している団体  
(2020年10月以前に設立したもの)
4. 特定の資格・経歴等の条件を必要としない、個人で加入できる民間の団体

●助成金額 1件あたり約20～30万円

●応募方法 所定の申請書をご郵送またはご持参ください。

●結果連絡 選考委員会による審査で決定し、2021年12月末までに団体代表宛に連絡いたします。  
(採否の理由に関するお問い合わせには応じ兼ねます。)

●助成金贈呈時期 2022年1月中旬

上記より詳しい募集要領がございます。  
以下にお問い合わせをしてから、ご応募ください。

## まずはお問い合わせを!

★ホームページから募集要領を読む

三谷市民文化振興財団のホームページへアクセス  
<http://www.mitene.or.jp/m-zaidan/promo.html>  
または検索エンジンで!

三谷市民文化振興財団

検索

★お電話で募集要領を取り寄せる

☎ 0776-20-3188 (一財) 三谷市民文化振興財団



■連絡先 ほっとルームあすわ 小宮山 0776-35-0041

地域の有志たちの「孤食でさみしい思いをしている子どもたちに、お腹いっぱいご飯を食べ、安心して過ごせる居場所を提供したい」との思いからスタートした同会は、今年で設立4年目を迎えた。常に子どもたちのことを中心に考え、嬉しいことを推進し活動を続けている。

調理スタッフは足羽地区のボランティアで構成され、年齢層も幅広く異世代の交流の場となっている。現在はコロナの影響で中学生は参加できないが、以前は中学生ボランティアが食堂で子供たちの面倒をよく見てくれたと言う。

今年にはコロナ禍の影響で食事の提供を月2回のお弁当の配布に切り替え、家庭の応援、また地域とのつながりを途絶えぬよう活動を続けている。

## 三谷市民文化振興財団の助成団体



■連絡先 フードバンクふくい 出雲 0778-42-8848

福井県は全国一の幸福県と言われるが、近年は福井県でも20人に1人が貧困状況となっている。子どもも食糧不足が懸念された約5年前に、ひとり親家庭を支援する「ふくい子ども食堂」を設立し、同時に「フードバンクふくい」も設立された。規格外等の理由で農家から出荷できずに廃棄される野菜や、諸事情で店頭には並べられない食品などを集荷し、その食材を各地子ども食堂やひとり親家庭へ無償配付し、食品ロスの軽減を図ると同時に支援も行っている。

今年にはコロナ感染拡大の影響で学校給食がなくなったために大量の食材が宙に浮き、全国から食品提供の相談があり、農水省からの依頼メールも届くほど、その活動は広く知られている。

福井市

## 「ほっとルームあすわ」 子どもがひとりでも安心して来ることができる居場所を提供

緑に囲まれた中にある和太鼓練習場に、高校生のお礼の号令が響き渡る。にこやかに優しい目でこたえるその人が、指導者であり演奏者でもある上坂優さんだ。

上坂さんは勝山高専、福井農林高校で和太鼓の指導者として20年以上携わってきた。その功績が認められ、平成31年に福井県から優秀指導者の表彰を受けている。「ようやく私が指導者として名乗ってもいいと許されたような気がする」と控えめに話す上坂さん。「高校3年間の彼らの青春を私が預かるのですから当初はプレッシャーがありました。接するうちに真面目からぶつかり、何を求め引き出すのが私の役割だと気づいたんです」。

和太鼓との出会いは昭和43年の福井国体。当時10歳の上坂さんは子ども演奏者として出演した。20代の頃、旧織田町に練習場ができると「神社の奉納とは違う、魅力的な舞台にしたい」と全国を奔走。和太鼓奏者の第一人者、林英哲氏のもとへ通い、和太鼓のスキルだけでなく魅せるための演出、舞台、作曲を身に付けた。一方で「日本文化を知ってこそ響きは深まる」と考え、津軽三味線をはじめ古来の音楽について学び、指導に活かしている。



## 上坂 優

指導と演奏に悩み続け  
私自身も進化を重ねた。  
次世代に音をつなぎたい。

鯖江市

## 店頭に並べられない食品を、各地子ども食堂やひとり親家庭等に配布 「フードバンクふくい」

さらに夏の越前町の恒例行事である「OTAKO響」を仕掛けた一人でもあり、全国から太鼓チームが集う一大イベントに成長させた。

平成30年の福井国体では開会式の和太鼓パフォーマンスで「恐竜行進曲」を手掛けた。「再び立つことになり、強い運命を感じました。生まれて、再生して、進む、恐竜の一生を今の時代に投影させた創作曲です」。大雨の開会式の中、300人をひとつにまとめ響かせた演奏はもはや伝説だ。今年の全国高校総体の開会式ではアレンジしたものを生徒たちが演奏する。

演奏者として現役を退いてはいるが「次は若い指導者を育てること」を目標に20代の若者たちとパチで気持ちを交わす。「若い力があつてこそその発展と継続、自分が作ったものを伝える喜びと幸せを太鼓指導に込めている」と力強く語ってくれた。

●うさぎがまさる／和太鼓グループ「OTAKO」の座頭として活躍。国内外で400回以上公演実績あり。現在は作曲と指導を中心に、越前町織田地区在住。



現在も週3回の練習は欠かさない。5尺の太鼓に腕を振り上げる。



20代の若手演奏者に太鼓の心技体を伝えることが今後の使命。